

## 国・地方連携会議ネットワークによる男女共同参画・子育て支援推進事業

(報告)

団体名：秋田大学

## 【セミナー等の名称】

男女共同参画シンポジウム「ワークライフバランス（仕事と生活との調和）の実現に向けて～ダイバーシティ尊重の風土醸成をめざして」

【共催】内閣府、男女共同参画推進連携会議

【後援】秋田県、秋田労働局、大学コンソーシアムあきた

【日時】平成21年10月17日（土）13:30～16:30

【場所】秋田ビューホテル

【参加者】96人

## 【プログラム】

## 第1部 基調講演

## ①「社会政策としてのワークライフバランス」

ノースアジア大学総合研究センター長 藤本 剛 氏

## ②「新聞社とくるみん」

秋田魁新報社総務局人事部長 西村 修 氏

## 第2部 パネルディスカッション「多様な生き方・働き方について」

(パネリスト)

西村 修 氏 (秋田魁新報社総務局人事部長)

佐藤 加代子 氏 (秋田県中央男女共同参画センター副センター長  
NPO 法人いきいきF ネット秋田理事)

渡辺 安子 氏 (秋田労働局雇用均等室長)

元野 隆史 氏 (秋田県生活環境文化部男女共同参画課副主幹)

(コーディネーター)

渡部 育子 (秋田大学男女共同参画推進専門委員会委員長  
教育文化学部教授)

## 【開催趣旨・目的】

少子高齢化や雇用情勢悪化が懸念される秋田において、本シンポジウムが男女共同参画先進県としてジャンプするきっかけとなり、この成果が大学の教育・研究者や秋田の地域社会のみならず、わが国の男女共同参画推進社会の実現に寄与することを目的とする。

## 【参加者からの主な意見等】

(フロアーからの発言およびアンケートの自由記述欄より)

(基調講演①に関して)

- ・(ワークライフバランスに関連したグラフを見て)実際のデータを知ることができ、参考になりました。
- ・格差、若年者の非正規雇用など、今の自分の現状と合わせて聞くことができ、非常にためになった。
- ・ワークライフバランスの推進は個人意識の改革によって前進することが大と感じました。
- ・時代の流れ、ポイント等広く理解することができ、学びが大きかった。
- ・近年の国のワークライフバランス政策の動向やデータに基づく課題などの概要が理解できた。

(基調講演②に関して)

- ・「くるみん」(おくるみから優しい子育てサポートをイメージしたマーク。「職場ぐるみ・会社ぐるみ」で子供の育成に取り組もうという意味)を知らなかったので知ることができてよかったです。
- ・初めて「くるみん」という制度を知ることができました。
- ・実際にあった話で、他の企業も真似できるようになればいいなと思う。職場の雰囲気、理解が大切だと思う。
- ・ワークライフバランスの実現に向っている職場の様子がよくわかった。パイオニアとして役に立つ。
- ・企業の担当者の具体的な経験、とくに困難をどう克服してきたかについてのお話が大変興味深かった。参考になる事例だと思う。

(パネルディスカッション)

- ・(ワークライフバランスに関連した)様々な取り組みがあることを知った。
- ・同僚に迷惑がかかるのではないかという「気兼ねがワークライフバランスを阻害する」との言葉、(ワークライフバランスという言葉について)わかっているにもかかわらずなかなか面と向かっては出てこない事です。事実だと思いました。
- ・(大学・行政・企業の)それぞれの立場からの取り組みについては理解できた。しかしながら、個々の取り組み、人材をネットワーク化するにはどうしたらよいかといった視点がみられなかったのは残念。
- ・県、国、NPO、大学各々の立場での課題や取り組み、意識改革の重要性が理解できた。
- ・(ワークライフバランスについての)理解が必要だということが理解できた。しかし、不景気の今、その理解をどのようにしたら得られるのか、ということを考えなければいけないと思った。

## 【今後の課題】

秋田大学は職員約2000人の大規模事業所であり、多様な雇用形態で働く人々の集まりである。秋田大学は地域社会を担う地方の高等教育機関としてリーダーシップを発揮し、次世代育成と持続可能な男女共同参画社会の実現をめざす必要がある。

# 国・地方連携会議ネットワークによる男女共同参画・子育て支援推進事業

## (報告)

団体名：群馬大学

### 【セミナー等の名称】

家族心理シンポジウム

【協力】 LLPファミリーサポート桜 群馬県ピア・サポート研究会  
群馬県学校教育相談研究会

【後援】群馬県

【日時】平成21年11月21日(土)

【場所】群馬県総合教育センター

【参加者】110人

【プログラム】別添資料

### 【開催趣旨・目的】

男女の仕事と生活の調和(ワーク・ライフ・バランス)推進事業において、『家族ライフサイクルに応じた子育てサポート』を推進していきます。

今回は、家族心理の立場から、家族のライフサイクルにおける課題とその支援について、現代社会の問題とリンクさせ、家族心理シンポジウムを開催しました。

家族療法の立場からの基調講演を受け、心理学、カウンセリングの領域によるコラボレーションにより、家族のライフサイクルに応じた子育てサポートの在り方について学びました。

### 【参加者からの主な意見等】

#### (基調講演)

- 分かりやすく大変良かったです。
- 大変参考になりました。
- 勉強になりました。実際的な家族療法の例を更に聞きたいと思いました。
- 家族関係などうなずくことが多かった。特に夫婦に関係など考えさせられました。
- 家族の関係性を見るポイントが参考になりました。
- IメッセージからWeメッセージへという言葉にハッとしました。

#### (パネルディスカッション)

- それぞれの立場は別なのに方向性が合っていて分かりやすかった。
- 家族療法の考え方、実践への適用の仕方等、即戦力になるお話が大変参考になりました。
- 先生方のそれぞれの活動がわかりました。とてもわかりやすい意見交替だったと思います。
- 家族療法の大切さを認識しました。企業に働く者が、家庭、家族を如何に大切に考え、生活するのかを考えていかなくてはなりません。

- 具体的なとりくみがきけて、さんこうになりました。
- 家族の問題のための解決の糸口をたくさん紹介して頂きありがたかったです。
- 家庭の祭事が大事（体験活動が大切）
- 「空気感」今日の自分自身の keyword になりました。家族間、学級間…全てにつながるものと思いました。

**【今後の課題】**（男女共同参画社会の形成の促進にあたって、群馬大学が今後取り組むべき課題）

今後は、家庭内の子育てに関する課題解決をサポートできる、年度内に研修会の開催、ネットワークづくりに取り組んでいく。

国・地方連携会議ネットワークによる男女共同参画・子育て支援推進事業  
『家族ライフサイクルに応じた子育てサポート』

# 家族心理シンポジウム

平成21年11月21日(土)  
群馬県総合教育センター 講堂

13:30 開会  
主催者挨拶

13:40 基調講演

東京大学大学院特任教授 亀口 憲治

14:55 シンポジウム

パネリスト

東京家政大学教授 相馬 誠一

LLPファミリーサポート桜代表 小松 典子

コーディネーター

群馬大学大学院教授 懸川 武史

16:30 閉会

国・地方連携会議ネットワークによる男女共同参画・子育て支援推進事業において、『家族ライフサイクルに応じた子育てサポート』を推進します。  
このたび、家族心理の立場から、家族のライフサイクルにおける課題とその支援について、現代社会の問題とリンクさせ、家族心理シンポジウムを開催します。  
家族療法の立場からの基調講演を受け、心理学、カウンセリングの領域によるコラボレーションにより、家族のライフサイクルに応じた、子育てサポートの在り方について学びます。

- ◆主催 内閣府男女共同参画推進連携会議 群馬大学
- ◆協力 LLPファミリーサポート桜 群馬県ピア・サポート研究会 群馬県学校教育相談研究会
- ◆後援 群馬県